

郷土資料館だより

Vol.44 No.2
2022.1.15

三島市市制施行80周年・郷土資料館開館50周年記念 企画展「仁和寺と三島—宮様が結んだ縁—」開催！

●開催期間 令和4年1月15日(土)～3月27日(日)

●会場 郷土資料館 1階企画展示室

三島市市制施行80周年・郷土資料館開館50周年を記念し、企画展「仁和寺と三島—宮様が結んだ縁—」を開催いたします。今回の企画は京都の名刹、真言宗御室派・総本山仁和寺の全面的なご協力により実現するもので、京都より数々の名品が三島にやってきます。

《京都の名刹・仁和寺》

京都の仁和寺と三島にどんな関係が？不思議に感じるのも無理はありません。まずは、仁和寺についてご紹介します。

仁和寺は、京都市右京区に位置する古刹で、仁和4年(888)に創建されました。平安時代以降、皇室出身者が代々住職(門跡)をつとめ(宮門跡)、門跡寺院として高い格式を誇りました(「門跡」とは皇族や公家が住職をつとめる寺院もしくは住職そのもののことです)。その後室町時代の応仁の乱(1467～1477年)で伽藍のほとんどを焼失してしまいました。江戸時代の正保3年(1646)にようやく創建時の姿に再興することができました。

現在は真言宗御室派の総本山であり、平成6年(1994)には「古都京都の文化財」のひとつとしてユネスコの世界文化遺産に登録されました。世界中から観光客が訪れる名刹で、御室桜と呼ばれる桜の名所としても有名です。

仁和寺と三島、そのふたつを結び付けたのは、「宮様」との縁でした。

《三島市民に「宮様」と親しまれた彰仁親王》

では「宮様」とは？

明治時代、三島の人々が親しみを込めて「宮様」と呼ぶとき、それは小松宮彰仁親王を指しました。現在市立公園楽寿園として四季折々に市民を楽しませている小浜池周辺の庭園は、明治23年頃から造営が始まった小松宮彰仁親王の別邸に端を発します。

小松宮彰仁親王は、弘化3年(1846)、伏見宮邦家親王の第八子として生まれ、幼名を豊宮といたしました。幼少のうちに出家し純仁法親王となり、仁和寺第三十世の門跡となりましたが、慶



▲草野龍雲筆『小松宮彰仁親王御法体肖像』
(総本山仁和寺蔵)



軍服姿の小松宮肖像写真
(総本山仁和寺蔵)

応3年（1867）には、動乱の時代を背景に復飾（出家の身から俗人に戻ること）を命ぜられました。仁和寺宮嘉彰親王と称して戊辰戦争などでは官軍を率いて戦い、以後皇族として軍事や外交の場で活躍します。その後明治15年（1882）には、宮号を改め小松宮彰仁親王としました。「小松」とは仁和寺がある地域の古い地名「小松郷」に由来しています。

小浜池周辺に別邸を構えた小松宮は、その一角を三島高等女学校（現在の県立三島北高校）の校舎として開放し、時には別邸の庭園で園遊会を催して市民を招くなど、三島の人々との折に触れた交流がありました。明治36年に宮が薨去してのち、王族や実業家へと代々所有者が移り変わっても美しい庭園と別邸建築は保持され、現在の楽寿園に至るまで多くの人々によって大切に守り継がれてきました。



「戊辰戦争絵巻」上巻（部分、総本山仁和寺蔵）



小松宮着用の軍服上衣
(総本山仁和寺蔵)

《三島の中の「京都」》

現在楽寿園内に残る楽寿館や梅御殿は、小松宮の別邸であった建物が今に伝わるものです。邸内には京風の意匠が随所に見られるほか、邸内を飾る絵画には京都の画壇で活躍した画家のものも多く、宮が若き日を過ごした京都への思いを色濃く反映しています。別邸建築や邸内に残された杉戸絵は静岡県及び三島市の文化財に指定されており、大切に保存されています。

《仁和寺に伝わる宮ゆかりの品》

今回の企画展は、小松宮を通じて京都・仁和寺と三島の縁をご紹介します。「錦の御旗」や小松宮が着用された軍服一式、幕末の動乱を生々しく伝える「戊辰戦争絵巻」のほか、梅御殿の杉戸絵と同じ画家によって描かれた仁和寺門跡時代の宮の肖像など、三島にいながらにして京都・仁和寺に伝わる貴重な資料をじっくりご覧いただける機会となっています。

令和3年12月18日(土)～令和4年3月27日(日)

パネル展「頼朝と三島—伝承をたずねる—」開催中

本格的な武家政権である鎌倉幕府を開いた源頼朝は、年少期より20年間流人として伊豆の地で過ごしました。このため、伊豆半島には多くの頼朝にまつわる伝承が残っています。今回の展示では三島市内に残る頼朝伝承の地を紹介します。

地域や学校の未指定等文化財の調査・保存事業

令和3年度から、郷土資料館の新規事業として、地域や学校の未指定等文化財の調査・保存事業を進めています。市内の個人宅や町内会などの団体が所有している古文書群などの文化財や、小中学校、幼稚園、保育園の所有する学校資料の散逸を防ぎ、後世に伝えていくためのものです。まずは、これら文化財の調査を進め、所有者による文化財保存を支援していきます。

●事業のきっかけは…

ここ数年、いわゆる旧家と呼ばれるようなお宅の代替わりや引っ越し、蔵の取り壊しなどを契機として、自宅で所有する古文書群などの処理についての問い合わせや寄贈の申し出が相次いで寄せられています。また、展示や調査のために過去に館で資料借用した家へ連絡すると、その所在が不明となっていた、というようなこともありました。このような事例は全国的にも問題となっているようです。その他、大規模な災害により多くの資料が失われるといった事態も起こっています。

また、地域の学校も多様な記録類、美術品、民俗資料等を数多く所有しています。しかし、教職員の多忙化や個人情報保護への対応のため、学校だけでこれら貴重な文化財の保存・活用に取り組むことは難しくなっているようです。

そこで、このような状況を少しでも改善するため、地域の文化財についての情報を集積してきた郷土資料館が中心となり、事業を進めていくことにしました。

●どんな資料を調査・保存していくのか

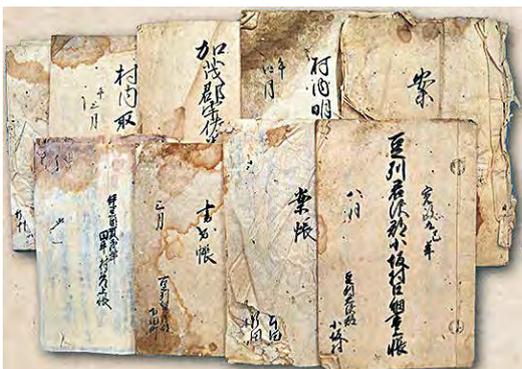
- (1)旧家などの個人宅や自治会などの団体が所有しているもの
 - ・名主家などの古文書・古記録群、古典籍、写真 など
- (2)小中学校、幼稚園、保育園が所有しているもの
 - ・記録類、美術品（とくに郷土の作家によるもの）、写真・アルバム、地域から寄せられた民具 など

●三島地域資料調査会の立上げ

この事業は郷土資料館と東小学校、徳倉小学校の3つの組織により「三島地域資料調査会」という会を立ち上げて進めています。学校との連携により、郷土資料館にとって不慣れな学校での調査を円滑に進められると期待できます。また、市の財政が厳しい中で新規事業を始めるには外部資金の獲得が重要になりますが、この調査会の立上げにより文化庁からの補助金を得られることになりました。まずは、3年間をめどに文化財調査を進め、その保存のための体制を整備したいと考えています。

●よごれていても、みすぼらしくても、文化財。みなさんからの情報もお待ちしています。

古い記録は一見汚れていても地域の歴史を今に伝える、替えのきかない貴重な文化財です。また近年は、古くても個人情報がかかっているからと廃棄処分にされてしまうこともあります。郷土資料館では個人情報に十分配慮して研究や展示を行っています。もし、「古いもの」の保管でお困りのことがありましたら、郷土資料館までご連絡ください。



江戸時代の古文書群（安久秋山家文書）



地元商店街のチラシ



坂中学校校旗

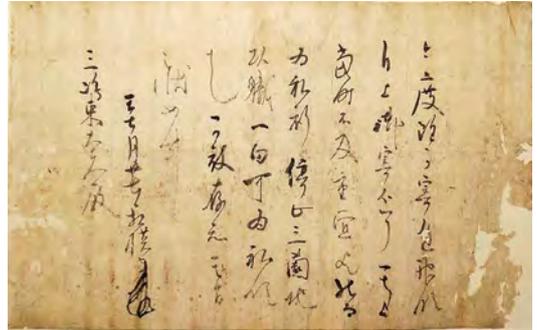
三嶋大社の古文書をよむ 第14回

◆北条義時の古文書①～義時の時代へ～

今年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(NHK)の主人公、北条義時の発給文書です。静岡県内では唯一残る貴重な義時の古文書をご覧ください。まずはこの文書の意味をとっておきましょう。言葉の足りない部分を補いつつ訳してみます。

今度神領寄進すべきといえども、上より御寄進をはんぬ。其の上当時重畳に及ばざるか。然して私祈のため三箇地頭職を停止す。一向私領たるべきものなり。その旨存知せらるべきの状、件のごとし。

三嶋東大夫殿
(元久二年七月)
 壬七月廿七日 相模守 (花押)



(元久2年)閏7月27日付 北条義時書状

「この度、御神領の寄進を

行いたいと考えていますが、すでに上より御寄進がなされておりますので(源頼朝の時代に、すでに御園郷などが寄進されていることを指すか)、(私、義時が)わざわざ重ねて寄進を行うには及ばないといえましょう。ですが私的な祈願もありますので、御園郷の地頭職を停止いたします(これを寄進の代わりといたします)。(今後の御園郷は地頭のいない、三嶋社の)全くの私領となりますので、その旨を、ご承知置き下さい」

この時代は、神社の所領であっても、その管理や神社への租税等の収納を、幕府から指名された地頭が、一定の取り分を得た上で行う例が増えました。この文書では、その地頭職を停止して、以後三嶋社が直接管理する土地とするという、三嶋社にとって一種の優遇措置がとられたとわかります。古文書には年紀がありませんが、義時の相模守任官時期と閏7月の記載から、元久2年(1205)のものとして確定できます。元久2年といえば、前回紹介した北条時政の裁定文書と同じ年のものです。時代の背景をおさらいしておきましょう。

2年前の建仁3年(1203)9月、2代将軍源頼家を失脚させ後援勢力の比企能員一族を滅亡させた時政は、翌元久元年(1204)7月に修禅寺で頼家を殺害。そして元久2年6月には武蔵国の支配を巡り対立した有力御家人畠山重忠一族を滅亡させ、その支配権を奪ったと考えられます。この時期は時政の権勢が、突出しつつある時期といえます。

このさなか、『吾妻鏡』元久2年閏7月19日条は唐突に、時政の妻牧の方が、娘婿の平賀朝雅を将軍職につけるべく現将軍実朝の殺害を企てたと伝えます。この情報を得た政子は義時に諮り、時政邸から実朝を奪還、義時邸へと保護します。俄の政変に時政は反攻することができず、「同日丑剋」とあるので、深夜をまわった20日午前2時頃には出家し(現在の様に午前零時で日付が変わるわけではないため、当時の感覚では19日のまま)、明けて午前8時頃には伊豆へと落ちて行きました。『吾妻鏡』は素っ気なく「伊豆国北条へ下向」と記し、政争に敗れ自ら下った様にも読めますが、『保暦間記』には「(時政を)伊豆国ノ奥山ナル所ニ押籠ツ、牧ノ女房ヲモ同国へ則流サルト聞シカ、後ハ不知」、藤原定家の『明月記』には伊豆山に「幽閉」と記します。状況から考えて、時政と妻牧の方は身柄を拘束され、護送の兵に囲まれて伊豆国へ退去させられたのでしょうか。

さて、この政変で時政がもつ様々な権益も義時へと移ったはずで、それを内外に示す通達もなされたでしょう。そのひとつが時政失脚7日後に出されたこの文書ですが、三嶋大社の利権に関わる文書ながら、幕府の行政機構や北条家の家政機関を介した文書ではなく、義時の「私祈」が優先された、義時の私文書のような形をとっています。こうした点に、単に祈願を寄せるという以上の、強い思い、ある種の覚悟が示されているように私には思えます。

ところで、この政変で義時は権力を掌握したようにみえるのですが、この点の評価は分かれます。『吾妻鏡』では、直後に義時が「執権(一般的には将軍の補佐役、政所の長官職等を兼任する幕府機構内の第一人者の地位)」に任ぜられたと記しますが、同史料を北条氏側の編纂史料という側面から考えると、鵜呑みにはできないとの指摘もあります。確かに『吾妻鏡』では義時の動向は知られるものの、幕府の発する文書などにおいて、その機構上での義時の姿は明瞭ではありません。そのため彼が名実ともに幕府の主導者となるのはもう少しあとという見方があるのです。とはいえ、これを境に義時が北条一族を代表し、幕府首脳の一人となったことは間違いありませんから、この文書は義時の時代の始まりを告げる、彼の思いや決意がうかがえる貴重な史料として留意すべきものと考えます。

(郷土資料館運営協議会委員・奥村徹也／三嶋大社宝物館 学芸員)

三島の歴史とジオポイント・23

—大場神社—

大場神社（大場10番・日本武尊と誉田別尊を祀る）は、伊豆箱根鉄道・大場駅の西側、歩いて約5分の所に鎮座しています。三嶋大社門前から南下する街道は、当社前で下田方面（下田街道）と熱海方面（根府川通）に分岐します。

当社の創建は不詳ですが、江戸時代後期（1806年）の「根府川通見取絵図・第二巻」では、「御嶽権現之社」として描かれています。神社合祀令により明治45年に村内の赤王神社と八幡神社を合祀して「大場神社」と社号を改めました。

沖積地で地盤の緩い大場地区は、関東大震災（1923年）で家屋の倒壊や液状化などの大被害を受けました。当社も拝殿・鳥居・石燈籠などが破損しましたが、翌年修復されました。

町中にあるためか、境内に樹木が少なく、明るく開けた感じで、親しみやすい神社です。

鳥居は表面を金属板で覆われており、心材は不明です。境内には震災で倒壊した長岡凝灰岩製の鳥居の基礎が残っています。重心が高い石製の鳥居は地震に弱いので、軽い素材で再建したのでしょう。

鳥居の右手には、元治元（1864）年に大平村（沼津市・大平）の石工が作った立派なデザイン（伊豆の国市・北江間から産出する石英安山岩）製の石燈籠が置かれています。竿の記載から「御嶽権現」に奉納されたことが分かります。燈籠の中台以上が破損し、火袋は3～4片に破砕したものを接着してあります。地震で竿より上部が吹っ飛んだのでしょう。

参道の左右には、皇紀2600（1940）年を記念して奉納された花崗岩製の狛犬が置かれています。左の吽形が雌のようです。

境内の右手には、長岡凝灰岩上部層（数百万年前に海底に堆積した砂質凝灰岩で伊豆の国市・北江間産）製の石燈籠が置かれています。火袋は同材で作直してあります。文政5（1822）年に「秋葉大権現」に奉納されたものですが、明治初期の廃仏毀釈で当社に移設されたそうです。

境内左手の手水鉢の基礎は長岡凝灰岩上部層製、本体は三島溶岩（約1万年前に富士山から流下し三島に達した溶岩）をきれいに成形してあります。

本殿の基礎は、浅海堆積の層理が発達した長岡凝灰岩上部層（江間の口野寄りにあった石切り場産）です。

境内奥に置かれている2基の小さな長岡凝灰岩上部層製の石祠は、それぞれ大井凝灰角礫岩（沼津市・大平産）製の台石の上に置かれています。

当社は街道筋から奥まっているため気付きにくい神社ですが、境内は氏子の方々のご奉仕でいつもきれいです。いろいろな石材が鑑賞できます、ぜひ一度参拝してください。

（郷土資料館運営協議会委員・増島淳）



正面から見た大場神社、右手に大きな石燈籠



長岡凝灰岩製の石燈籠

三島市制施行80周年・郷土資料館開館50周年 企画展「三島のはじまり 旧石器～古墳時代」報告

●開催期間 令和3年7月22日(木祝)～12月19日(日)

●展示資料数 139点 ●入場人数 18,776人

市制施行80周年・当館開館50周年を記念し、人々の営みが確認される旧石器時代から、縄文、弥生時代を経て、古墳時代中期にいたるまでの、三島市域の歴史を紹介した企画展です。市教育委員会および県埋蔵文化財センターが所蔵する、市域から出土した考古資料を多数展示しました。また、県地学会東部支部長増島淳氏のご協力のもと、市域の地形が形成される過程についてもパネルで紹介しました。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のため、8/20～9/30の間、臨時休館となってしまいましたが、感染状況が落ち着いた後は、市外や県外からも多くのお客様が来館し、本展をご覧いただくことができました。



●関連事業

講演会①「弥生時代の三島市内の様子」

講師：岩本 貴氏（伊豆の国市文化財課）、9/23(水)～10/17(日)
(事前申込者計52名限定オンライン配信)、視聴回数：のべ193回(講演動画を3本に分けて配信)

講演会②「前方後円墳と古代伊豆の原像」

講師：滝沢 誠氏（筑波大学人文社会系）、11/28(日) 於生涯学習センター講義室 参加者数：55人

郷土教室「古代のくらし」11/20(土) 参加者数：82人

関連事業として企画した講演会のうち、①は当初、9/18に文化会館大会議室で開催することを予定していましたが、感染症の状況悪化をうけ、講演の様子を撮影、YouTubeで限定公開し、事前申込者（キャンセル待ちを含む）に各自視聴していただく方法へと切り替えました。ご不便をおかけすることも多かったと思いますが、視聴した方からは、「会場よりも資料が見やすく、先生のお話もとてもわかりやすかった」との声をいただくことができました。②は当初の予定どおり開催し、「古墳への興味が広がりました」「身近な古墳を訪ねたくなりました」等、うれしいご感想を多数いただきました。



ふるさと講座「地域の文化財めぐり 徳倉・竹倉」報告

●開催日時 徳倉 令和3年12月3日(金)

見学地：歓喜寺・徳倉小周辺等 参加者数：14人

竹倉 令和3年12月17日(金)

見学地：通猛寺・八王子神社・屏風岩等 参加者数：10人

●講師 増島 淳氏（静岡県地学会東部支部長）

本年度、新たな試みとして、地域に所在する石造物や史跡を講師の解説付きで見学するツアー「地域の文化財めぐり」を実施しました。対象の地域は、徳倉と竹倉の2地区とし、そこにお住まいの方たちを主な対象として、地域の歴史的・文化的魅力を再発見していただくとう計画したものです。

徳倉では、歓喜寺のご協力のもと、本堂や庫裡、地藏堂内の文化財を拝見し、前ご住職とご住職より「伊豆の長八」についての貴重なお話をうかがうことができました。参加された方はみな、その歴史と文化財の豊かさに感動の声をあげていました。

竹倉では、代々この地に住まわれている方たちの参加も多く、旧道や旧河川の情報など、実際にその場所を歩きながら、地域の歴史に関わる詳しいお話を聞くことができました。



徳倉（歓喜寺地藏堂）



竹倉（出征馬供養塔）

郷土教室・体験イベントの報告と予定

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。令和3年7月から12月までに行った事業をご紹介します。

日 程	郷 土 教 室	内 容	参 加 者
7月3日(土)	昔のあそび	ブンブンごまづくりとコマ・けん玉遊び	中止 ^{※1}
7月11日(日)	楽寿園の自然	身近なものを使った噴火実験	22人
8月7日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド	キット配布
8月11日(水)	楽寿園の自然	楽寿園の木や枝を使った工作	中止 ^{※2}
8月21日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド	中止 ^{※3}
8月25日(水)	紙漉き体験	紙を漉いてハガキをつくる 協力：三島ゆうすい会	中止 ^{※3}
9月4日(土)	昔のあそび	ブンブンごまづくりとコマ・けん玉遊び	中止 ^{※3}
10月16日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド	38人
10月30日(土)	昔のあそび	ブンブンごまづくりと缶ポックリ	34人
11月6日(土)	楽寿園の自然	ドングリごまと葉っぱの拓本カード	36人
11月20日(土)	古代のくらし	勾玉づくり、火おこし体験、土器当てクイズ	82人
11月23日(火祝)	昔のどうぐ	ミニチュアうどん作り、食べ物にちなんだ昔の どうぐの体験	102人
12月4日(土)	わら細工	ワラでお正月用のお飾りづくり	79人

※1 大雨警戒警報発布のため ※2 新型コロナウイルス感染症対策のため ※3 緊急事態宣言発布による臨時休館期間のため

これからの郷土教室の予定

日 程	郷 土 教 室	内 容
1月15日(土)	機織り体験	裂き織りの体験、要申込み、(先着順、定員10名、対象：小4以上)
1月22日(土)	リリアン編み	毛糸で干支のトラをつくる ※10:00~12:00 要申込み(~12/12まで受付、応募多数時抽選、定員10名、小3以下保護者同伴、1組3名まで入室可)
2月5日(土)	型染め体験	防染の技法を使ってカードをつくる
2月23日(水祝)	遊んで学ぼう富士山デー	富士山の溶岩観察、富士山にちなんだカルタ
3月5日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり、三島宿の展示ガイド

博物館実習

●開催期間 令和3年8月31日(火)~9月10日(金)のうち8日間

●参加人数 5人

本年度も学芸員資格の取得を希望される学生の方に対して「博物館実習」の受け入れを実施しました。実習は8日間の日程で実施し、前半は主に館運営や資料の取り扱いについて学び、後半は収蔵庫整理、資料登録等の実習を行いました。また、2階常設展の大工道具の展示資料の入れ替えをやっていただきました。右の写真は入れ替え後の展示写真です。ぜひ見に来てください。



寄贈・購入資料の紹介

令和3年6月から令和3年10月までに、次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。お礼申し上げます。

●寄贈資料

寄贈者	資料名	点数
土屋 賢一 氏	屏風	1点
三島市立図書館	2円切手(農婦)	3点
吉田 泰次 氏	和菓子店関係資料、物差し、鯉節削り器、肉挽器、木の葉の化石	76点
波藤 智恵子 氏	三島第二尋常小学校卒業アルバム(昭和6年)、集合写真	2点
白井 修弘 氏	唐箕	1点
二葉 泰司 氏	郵便貯金通帳、郵便関係資料、電気髭剃り、カセットレコーダー他	10点

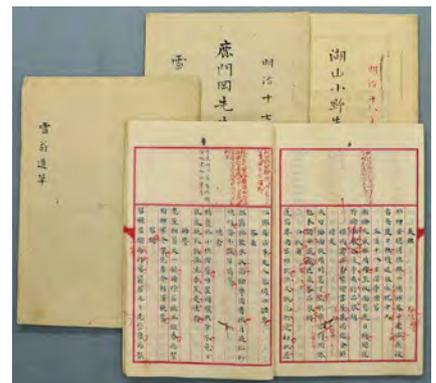
●購入資料

寄贈者	資料名	点数
『雪翁遺草』出版関係資料	縦帳。明治18年。福井雪水の遺稿『雪翁遺草』の校正原稿。	4
『第四回静岡県産牛馬共進会記念写真帖』	版。大正5年10月、行方写真館。同月14日より三島神社(現三嶋大社)で催された静岡県産牛馬の共進会(産物・製品を展覧、優劣を品評した会)の写真帳。	1
「静岡県伊豆国下田鉄道敷設請願書」	版。明治32年12月25日、依田佐二平外84名差出、貴族院議長公爵近衛篤磨・衆議院議長片岡健吉宛。大仁駅(豆相鉄道終点)～下田港間の軍事鉄道敷設を求める請願書。	1
「東海道 箱根」(御上洛東海道)	浮世絵。一光斎(歌川)芳盛(1830～85)筆。文久3年(1863)の14代將軍徳川家茂の上洛を描いたシリーズの中で、箱根関所を通過する様子を描いたもの。	1

●『雪翁遺草』出版関係資料

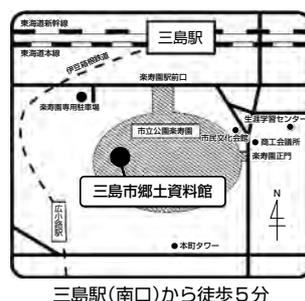
縦帳、4冊。明治19年(1886)11月に版行された福井雪水(1814～70)の遺稿集『雪翁遺草』の校正原稿です。「雪翁遺草」の表題を付した1冊と、「鹿門岡先生評」(漢学者岡鹿門)・「湖山小野先生評」(漢詩人小野湖山)・「枕山大沼先生評」(同大沼枕山)の表題を付した各1冊が縦帳に仕立てられています。

雪水は、三島宿長谷町(現大社町)で漢学塾「千之塾」を開講し、多くの門人を輩出しました。『雪翁遺草』は、門弟の山口余一(菰山中学校長・伊豆国人民惣代など)らによって編纂されたものです。本資料の表紙には「明治十七年一月閱了」「明治十八年十二月閱了」等の文言が見られ、本文中には朱筆で加筆・修正が書き入れられています。版行されたものとは文章の配列自体も相違し、版行までに何度か行われた校正作業の途中段階のものと思われ、貴重な資料といえるでしょう。



郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045
 開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)
 午前9時～午後4時30分(11月～3月)
 休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
 年末年始
 入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
 300円がかかります。15歳未満は無料、
 学生は学生証提示にて無料。)



郷土資料館だより

vol.44 No.2 (第131号)
 発行日 令和4年1月15日
 (年2回発行)

編集 三島市郷土資料館
 発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
 URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/

